

ねっどわーく



H24. 07. 04 No.22

■子どもの意見を否定しないスタンスって、当たり前だけど大事

純子先生、昨日は、授業研（非公式（笑）、ご苦労様でした。助言者の武田先生をお招きして、自分としては、また新たに学び多い授業ならびに事後研でした。

事後研での武田先生、開口一番「子どもの意見を絶対否定しないスタンス、いいですね〜。」とありました。まったくそのとおりだと思いました。だからこそ、とってもあたたかい雰囲気での授業が展開されていました。

いくつか、個人的にですが、学んだこと、書きたいと思います。純子先生の位置いいですね。議長にも板書にも支援の当てる位置。↓

①「任せる」ということについて

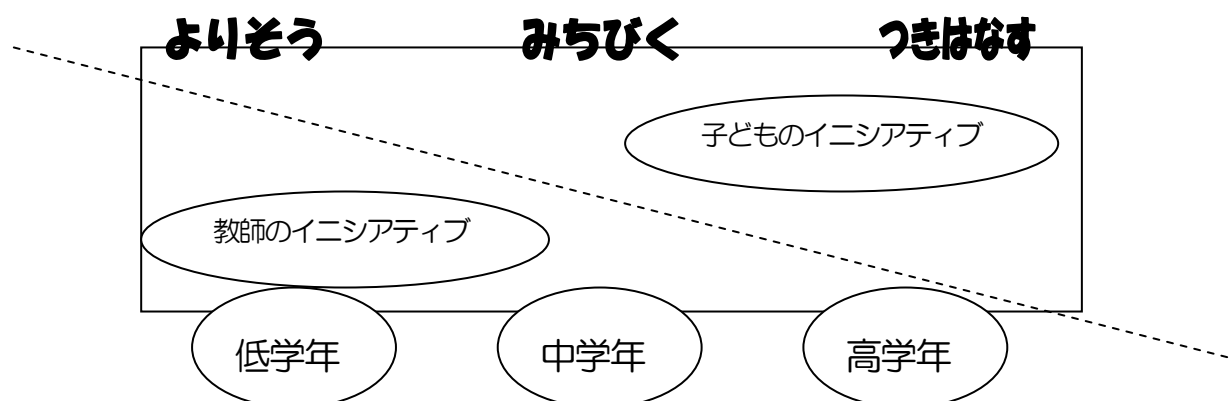
子どもたちが、まだ、自分たちで、話し合い活動を進めることに慣れていない場合、子どもたちの実態に応じて、教師が支援してもよいということが事後研で話し合われました。

すべてを任せるということは、やはり難しいことがある場合、下の表のような感じで、大丈夫ではないかなあ。

ただし、下の表に関しては、ある程度学年で区切っていますが、大事なのは「目の前の子ども」。

それを学びました。また、親離れ、子離れではないのですが、自然と教師が離れていくこと（つまり任せること）へ持っていきたいですね。

これをするには、やはり、学活の時間だけでは不可能なので、各教科の中で、子どもたちだけが話し合う場とか、小グループでいいので順番で司会をする場などを設けて、力をつけていく必要があるのかなあと思いました。



②めあての大事さ

いつもながら大事だなあと思うのが、必要感。これって、教科のときより大事だなあと思いました。子どもたちが熱心に話し合うのは、必要感があるからですね。純子先生のクラスの子どもたちはもともと仲がよいので、ことさら、仲良しを目指す必要性（教師が思っている、子どもたち自身がという意味）子どもたちが思っていたかどうか。自分ももっと子どものことをみていかなければと思いました。純子先生、ありがとうございました。